

平成24年度事業報告書

平成24年3月21日に東京都より移行認可を受け、4月1日より一般社団法人として事業活動を開始した。

本年度は、東京港の振興促進に向けた具体的な行動指針である「第3次アクションプラン」の課題実現に向けた取り組みを進めるとともに、東京港、川崎港、横浜港の京浜三港の広域連携に向けた取り組みとして、昨年度に引き続き、3港の港湾管理者、振興協会など8団体の共催により「京浜港の集い」が開催され、当協会も主催者の一員として積極的に参画した。

また、東京港振興使節団の海外派遣のほか、東京港見学会の実施、各種資料の発行、東京みなと祭の開催、東京みなと館の運営など東京港のPR活動を例年通り展開するとともに、協会の財政基盤の確立のための収益事業を実施した。

1. 港湾振興事業

(1) 東京港振興促進協議会

平成21年2月に策定された「第3次アクションプラン」の課題実現に向け、より国際競争力のある使いやすい港づくりに向けた取り組みを進めた。

本年度は、幹事会を2回開催し、「第3次アクションプラン」の取り組み状況を検証したほか、港湾施設使用料のインセンティブ制度改正やコンテナ貨物集荷補助などの貨物集荷策や、東京港の抜本的な機能強化及び渋滞対策・保安対策などの港湾機能の充実・強化に向けた今後の対応、東京港における首都直下地震発生時の震後行動（港湾BCP）に関する東京港連絡協議会の設立などについての報告が行われ、今後の東京港の取り組みなどについての意見交換を行った。

(2) 船舶貨物誘致活動の推進

東京港振興使節団として海外への使節団を派遣し、ポートセールス活動を展開した。

派遣期間 10月24日から10月31日までの8日間

派遣先 アメリカ合衆国（ジャクソンビル、マイアミ、ロサンゼルス）

活動内容 クルーズ客船会社や物流事業者などと意見交換を行い、現地の最新の動向や東京港への意見要望などの情報を収集するなど東京港の利用促進に向けたポートセールス活動を行うとともに、港湾管理者やターミナル事業者などを訪問し、港湾経営に関する意見交換や港湾施設及び物流施設の視察などを行った。

また、ロサンゼルス港においては東京港との姉妹港提携25周年覚書の調印を行った。

(3) 客船誘致活動の推進

① 入出港歓送迎行事等の実施

本年度も国内外のクルーズ客船に対して延べ22回の入出港歓送迎行事を行い、記念品を贈呈するなどの誘致活動を行った。

また、都民を対象とした低廉な価格設定による「都民クルーズ」に協力し、日本一周や小笠原諸島クルーズなど9回のクルーズを支援するとともに、「全国クルーズ客船誘致連絡会」に参画し、今後の客船の動向など効果的な受け入れのための情報を収集した。

② 東京クルーズセミナーの開催

東京都では、平成24年度から新たなクルーズ客船寄港促進のための制度として水先料金や曳船料金、綱取・綱放料金などの補助制度を実施している。

こうしたクルーズ客船に対する取り組みを周知し、東京港周辺及び伊豆・小笠原諸島の観光についての最新情報を提供するとともに、東京港への要望などについてヒアリングを行うため、昨年度に引き続きクルーズ客船運航事業者や旅行会社などの業界関係者を対象にセミナーを開催した。

開催日 2月14日

開催場所 帝国ホテル

主催者 東京都、東京港埠頭株式会社、東京都港湾振興協会

参加者 約50名

③ 東京クルーズ客船プロジェクトチームへの参画

東京都港湾局、東京港埠頭株式会社及び当協会によるプロジェクトチームを立ち上げ、クルーズ客船の東京港誘致に向けた取り組みについて検討を行った。

(4) 荷主などとの懇談会の開催

京浜三港広域連携の具体化として、荷主などの利用者に通常目にする機会の少ない港の現場の見学の場を提供し、京浜港を身近に感じていただくとともに、荷主などの意見・要望を把握し、新たな施策展開に向けた検討に資するため、レストランシップを利用した「京浜港の集い」を開催した。

開催日 10月25日

開催地 東京港・川崎港内

主催者 東京港、川崎港、横浜港の港湾管理者

東京港埠頭株式会社、横浜港埠頭株式会社

東京都港湾振興協会、川崎港振興協会、横浜港振興協会

参加者 約150名

(5) 社会科見学船による東京港案内の実施

東京都との共同事業として、船の提供は都が、募集・案内業務は当協会の自主事業として実施した。

都内の小学4年生から6年生及び中学生を対象に、海上バスによる東京港案内を実施し、東京港の役割や都民生活とのかかわりなどを説明した。

65航海、150団体、11,482名の乗船者に対して案内を実施した。

(6) 都民を対象とした東京港見学会の実施

広く都民に東京港をPRするため、新東京丸による東京港案内と東京みなと館の見学を行う東京港見学会を実施した。

この見学会は公募により参加者を募集し実施しているが、平均20倍程度と多数の応募があり、都民に対する東京港のPR活動として定着している。

11回実施し合計577名の参加を得た。

(7) 東京港夜景観賞ツアーの実施

広く都民に東京港の魅力をPRするため、公募により参加者を募集し、普段は見る機会の少ない東京港の夜景を東京みなと館及び海上バスから観賞するツアーを実施した。

実施日 11月22日、30日の2回

参加者総数 419名（応募倍率9.6倍）

(8) 東京・川崎・横浜3港クルーズの実施

昨年度に引き続き、公募により募集した都民を対象に、東京港、川崎港、横浜港の京浜3港を巡るクルーズを実施した。

貨客船により東京ゲートブリッジや羽田空港新滑走路など、東京港及びその周辺で進められている開発状況を海上から見学し、広く都民に東京港をはじめ京浜三港をPRした。

実施日 9月27日

参加者数 240名（応募倍率32.6倍）

(9) 東京港及び臨海副都心の観光案内事業の実施

東京港及び臨海副都心を、都民はもとより国内外の多くの人々に親しまれる東京の観光スポットとしてさらに発展させるため、日の出ふ頭海上バス発着所に観光案内掲示板及びパンフレットスタンドなどを設置し、各種博物館などの施設案内や港湾局事業をはじめとする東京都のお知らせやイベントなどの情報提供に努めた。

なお、英語や中国語、韓国語などの外国語のパンフレットを配備するなど外国人に対するPR活動の充実を図った。

(10) 国への要請活動の実施

平成25年度の東京港整備の重点課題となっている中央防波堤外側Y3コンテナターミナル並びに臨港道路南北線の整備のための事業採択及び高機能ガントリークレーンへの補助金導入について、一般社団法人東京港運協会、東京港埠頭株式会社及び東京都港湾局とともに国の関係省庁へ要請活動を実施した。

要請活動にあたっては、施設容量を上回るコンテナ取扱量の増加による東京港の混雑・渋滞状況の現状や国際コンテナ戦略港湾を実施する上で、施設容量の拡大など港湾インフラの充実・強化が不可欠であることなどを説明した。

2. 情報提供等事業

(1) 会誌「東京港」及び東京港関係資料などの発行・配布・販売

- ① 会誌「東京港」（年4回発行）
- ② 「東京港港湾統計月報」
- ③ 「東京港ハンドブック」（和文・英文）
- ④ 「東京港便覧」

(2) 新東京丸及びバスによる東京港見学会の実施

会員を対象に、東京港及び東京みなと館などの見学会を実施した。

- | | |
|-----------------------------|----------|
| ① 新東京丸による東京港見学会（12月、3回実施） | 合計126名参加 |
| ② バスによる東京港見学会（4月及び10月、4回実施） | 合計107名参加 |

(3) 東京・川崎・横浜3港クルーズの実施

昨年度に引き続き、会員を対象として、貨客船により海上から東京港、川崎港、横浜港の京浜三港の現状などについて見学するクルーズを実施した。（都民を対象としたクルーズと合同実施）

実施日 9月27日

参加者数 311名

(4) 東京都港湾局等事業説明会及び講演会

東京都港湾局及び東京港埠頭株式会社の事業概要についての説明会と東京都港湾局技監による東京港の最新のトピックスをテーマとした講演会を開催した。

開催日 4月10日

開催場所 経団連会館

参加者 港湾関係者を中心に194名

<事業説明会>

① 「平成24年度 東京都港湾局事業について」

東京都港湾局総務部企画計理課長 小泉 雅裕 氏

② 「平成24年度 東京港埠頭株式会社事業について」

東京港埠頭株式会社総務部経理課長 安川 一生 氏

<講演会>

「東京港の最近の話題」

東京都港湾局技監 前田 宏 氏

(5) 港湾事業講習会及び東京都港湾整備振興大会の開催

港湾に関する講習会及び港湾整備事業の拡大強化を図るための集会を次のとおり実施した。

開催日 7月5日

開催場所 経団連会館

参加者 港湾関係者を中心に163名

<港湾事業講習会>

東京都港湾整備振興大会に先立ち、港湾事業講習会として、東京都においてクルーズ客船の東京港寄港促進に力を入れていることから、クルーズの魅力とクルーズ客船の東京港寄港による港湾振興などについての講演会を開催

「クルーズの魅力と東京港」

株式会社クルーズバケーション 代表取締役 木島 榮子 氏

<東京都港湾整備振興大会>

港湾整備事業の拡大強化を図るため、都議会議員をはじめ、島しょの各町村長、東京都港湾局長、臨港六区関係者などの臨席のもと、東京都の港湾・海岸整備に関する決議文を採択し、関係機関への要望活動を実施

3. 東京みなと祭事業

東京みなと祭協議会事務局として、5月12日・13日の両日に、晴海客船ターミナルを中心に第64回東京みなと祭を開催した。

恒例行事のポートバザールや東京港クルーズ、珍しい船の一般公開などをはじめ、空から東京港を一望する熱気球の係留フライトや防災、災害支援をテーマに東京消防庁及び自衛隊の特殊車両や機材を一般公開する防災体感フィールドなどを実施したほか、協賛行事として、水の消防ページェント、ドラゴンボート大会などが実施され、協賛事業を含めた総来場者数は89,000人にのぼった。

また、5月21日には東京港開港記念行事として、東京港港湾功労者表彰式を芝浦サービスセンターにおいて開催し、港湾功労者14名に対し都知事感謝状と記念品を贈呈した。

表彰式に引き続き、東京港開港記念祝賀会実行委員会事務局として東京港開港記念祝賀会を開催し、236名の出席者があった。

4. 広報関連受託事業

東京都から委託を受けて、次の事業を東京港PR活動として実施した。

(1) 入港船の歓迎

初入港船、外国客船、国内クルーズ客船、コンテナ船などに、84回の歓迎行事を実施した。

また、外国客船については、英文等のガイドマップを乗客、乗員に配布し、船内または客船ターミナル内にて観光ボランティアを活用したインフォメーションカウンターを開設するなど乗客、乗員に対するサービスの向上に努めた。

(2) 新東京丸による東京港案内

国内の港湾関係者のほか、自治会、町会、婦人会など広く都民を対象に、視察船「新東京丸」による東京港案内を実施し、東京港の将来計画や各種港湾施設の説明を通じ、東京港の機能や都民生活とのかかわりなどの理解を図った。

267航海、612団体、12,182名の都民に対して案内を実施した。

5. 助成事業

公益財団法人日本財団の助成事業として、小中高生及びPTAなどの団体を参加対象とした海上バスによる東京港見学及び東京みなと館の見学研修会を実施し、港の施設や港湾の果たす役割などを説明し、海事思想の普及に努めた。

30回実施し、72団体、5,541名の参加を得た。

6. 東京みなと館事業

展示内容を現況に則したものにするため、昨年度に引き続き各種展示物を改修したほか、集客を図るため、次のとおり2回の特別企画展などを開催した。

① 東京港開港70周年記念写真展「東京港 都市と共生する みなと」

期間 平成23年12月27日～平成24年8月31日

関東大震災の試練を乗り越えて1941年に国際貿易港として開港した東京港は、第二次世界大戦後の厳しい状況の中から復興をとげ、日本を代表する国際貿易港に成長した。そうした東京港の活力と魅力を伝える写真展を開催

② 東京港開港70周年記念フォトコンテスト入賞作品展「PORT OF TOKYO ～美しいみなと、魅力あふれるまち～」

期間 平成24年9月1日～平成25年2月1日

東京都港湾局の協力を得て、東京港開港70周年記念事業として実施されたフォトコンテストの入賞作品展を開催

入館者は都民をはじめ、国内外からの行政視察、港湾関連企業グループ、小中学生の社会科見学など多岐にわたり、本年度の入館者合計は、26,425名であった。

7. 収益事業

(1) 当協会が設置した駐車場、自動販売機などの営業活動を実施した。

(2) 「東京港ハンドブック」、「東京港便覧」などの東京港関係資料の販売を行った。